

たてもの探訪⑤

## 小田神社楼門

今回紹介する建物は重要文化財「小田神社楼門」です。

小田神社は市域南部、小田町の集落中央に位置し、小田町・十王町・江頭町の産土神として祭られています。中世の荘園「邇保庄」の惣領守といわれ、現在まで脈々と人々の信仰の対象として引き継がれています。

神社の創建については神社に伝わる「小田神社由緒記」、「邇保惣社大宮小田大明神社記」に伝承が残されています。

「小田神社由緒記」によると、垂仁天皇の皇女・倭姫命が天皇の命を受け、伊勢神宮の宮地を探し、益須ヶ嶽（三上山）の



小田神社楼門

麓を経て、この地にたどり着き、伊勢神宮へ献供する稲田を開墾しています。また、この時に開墾された新田を「御田」と呼び、

これが小田の地名の由来となったとも伝えられています。

一方「邇保惣社大宮小田大明神社記」によると、欽明天皇の時代に鎮座し、元正天皇の養老2（718）年に社殿を創建したと伝えられており、創建年代についての記録に相違があり、確かな創建時期は明らかではありません。

しかし、昭和61年に拝殿の建て替えに伴い実施された寺田遺跡の発掘調査で、10世紀後半から11世紀初頭の「神殿」と墨書された須恵器杯が出土し、遅くとも今から1000年前、平安時代の終わり頃には神社に伴う建物がこの地に既に存在していたことが明らかになっています。

現在、境内には鳥居、楼門、拝殿と本殿が一直線に建ち並びます。

楼門は、間口三間の中央に扉を持つ三間一戸楼門で、入母屋造、屋根は檜皮葺きとなり、堂々とした風格を備えており、建築

様式や手法などから室町時代前期の建物になります。

1階は、扉通りを除いて貫を組み合わせのみで組物間に壁を設けず、軽快で開放的な印象を与えます。2階には、縁を回し、屋根の軒を二軒繁垂木とします。1・2階とも円形の柱の上に三手先組物を用いて、縁と屋根を支えています。全体に伝統的な和様でまとめ、均整がとれた典型的な形式の楼門です。

重厚な構えでその荘厳な雰囲気は見るものの心をひきつける建物といえます。



「神殿」墨書須恵器杯

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

人口と世帯 令和4年7月1日現在 ( )は前月比

総数	81,924人	(+ 20)
男	40,243人	(+ 5)
女	41,681人	(+ 15)
世帯	34,951世帯	(+ 44)

※外国人住民(41か国・地域/1,691人)を含みます。

Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE

